

「まちかどミーティング(地域巡回)」概要 (田代生活改善センター)

日時・場所 平成 21 年 8 月 28 日(金) 午後 7 時 ~ 8 時 20 分 田代生活改善センター
市民参加者数 22 人
市側出席者 市長・企画部長・総合政策課長補佐・地域情報課長・同広報聴係長・同係主査
二ツ井地域局長・同局市民福祉課長補佐・財政課財政係長

市長市政報告 (19:00 ~ 19:40) ・総合計画「“わ”のまち能代」の意義
・「農林業政策」と「農家民泊視察」
・「リサイクルポート」と「県北エコタウン構想」、「環日本海視野」
・市役所は「独占企業」、変革で市民に満足を

市民との対話 (19:40 ~ 20:20) Q 「高さ日本一の秋田杉」には全国から客が来るが、散策路は木の板を渡した
だけで滑りやすく、遠来の客がかわいそう。国有林地だと思うが、市の観光資源
の価値もあるので、ウッドチップ等で整備できないか。
A 「学術参考林」では、考え方が二つある。「(保護林としての)杉林とのバランス
をどうとるか」と、入山者の服装の問題。入山に適した靴等を準備してほしいが、
現実には違うので、自然保護とのバランスをとるよう、森林管理署と協議し、
今後の整備方針を検討したい。
検討内容...ウッドチップ等での設備は、国との協議が必要。パソレット等に注意事項
として掲載するなど、履物等の情報提供をしていく。

Q 上小阿仁に抜ける市道が、傷んでいる。生活道路でもあり、普段からの手入れを。
A 市道整備は、危険部分は早急に手がけるが、拡幅等は財政等厳しい。危険箇所等
見つけたら、地域局に連絡をしてほしい。

Q 旧田代小の空校舎利活用の意見交換では「一般公募」になったが、各地で行われた
状況はどうだったか。
A 田代小が皮切りで「一般公募を進める」旨で集約。今後の日程は、10 月から
2 ヶ月程で公募。その後、皆様と応募者を交えた協議を予定。もし応募がなければ、
当面は現状のまま。
他の 5 小学校は、仁鮎では、地域で「小学校を守る会」を立ち上げ、利活用を
図り、「秋田杉」の縁で田代地区と連携したい希望もあるよう。
天神小は、校舎の一部を利用している加-愛好者団体が、活動を発展させる形での
活用を検討している。
切石小は、地域で残したいと案を練っており、今後協議していく。
富根小は、公的施設として再利用の提案があったが、RC造りのため耐震診断が
必要で、簡単にはできず、一旦リセットされた形。
種梅小は、校舎も古く、「解体やむなし」の方向。

Q 小学生等の基礎体力が右肩下がりと聞く。一説では校庭が土等のため全力で走れず
運動不足が原因とも聞くが、小さい頃の運動が後に影響すると思うので、
ニューランドのように新小学校では芝を貼る等できないか。
A 新校舎では芝貼りの予定はない。体力低下に関しては、今は外で遊ぶ子ども
も少なく、大人と同様に膝痛や腰痛を持つ子どもが多いとのこと。しかし、ある
学校では、学校ぐるみで木造校舎の廊下磨きを続けた結果、筋力がついたのか、
症状が改善され、さらには喘息・アトピーまで改善された例がある。学校で

体力作りに取り組んだり、父兄・地域で見守りながら外で遊べる環境を作りたい。例えば、土日に学校を利用できる環境づくり等、外に出て体力を付けること等教育委員会とも相談したい。

検討内容...新校舎「グラウンド」の芝貼りは、予定していないが、転んでも怪我の可能性が少なく、隣接住宅等への砂埃の飛散防止効果もあり、県内の施工事例を参考に、維持管理等課題を整理し、可能性を検討したい。

学校の取組として、長休み時間に、全校でリズム体操やなわとび等を行う例もあり、運動機会をできるだけ設定するよう校長会等で呼びかけていく。また、休日のスポーツ少年団活動や体育的事業・イベントへの参加を促すため、学校に情報提供等の働きかけをお願いしていく。

Q 新小学校が開校すれば、通学路も変わる。町中の岩堰は、春先には水量も増し事故等も想定される。安全面の配慮を十分にしてほしい。

A 十分に点検したい。

Q 営林署で国有林を伐採する際に、集材機ではなく重機で搬出する。その影響で山肌も荒れ、川が濁り、土砂で埋まる。以前にも市担当課・森林管理署に善処方要望したが、いい返事がない。今後、大雨等で災害も想定され、強く訴えてほしい。

A その土砂や濁りの根本原因を正すのが先決。調査したい。

検討内容...現地を調査し、米代西部森林管理署に重機搬出の影響なのか状況等を確認し、対応していきたい。

Q 県で進めた造林事業だが、これから伐期を迎える。ぜひ、木材の販路拡大と需要拡大に向けた施策を推進してほしい。

A 能代港での海路を考えた場合、傷まない木材等が適している。それから、「組子」等の木工技術が、外からは高評価されている。しかし、「曲げ」「プレス」等素晴らしい技術で、地元の素材に付加価値を付けた製品開発が可能だが、商品化する業者がない。構造材や、木工製品等、木都「能代」として足元を見直して取り組みたい。市民の協力をお願いしたい。

検討内容...木材の販路拡大、需要拡大に向け市が取り組む主な事業

- ・「秋田杉」の温もり」補助事業実施(地場産材を使用した住宅建築の推進)
- ・秋田杉 厚板活用構法事業への参加(住宅用秋田杉 製品の研究開発)
- ・学校建築をはじめとする公共建築物の木造木質化への取り組み
- ・木材高度加工研究所、木材加工推進機構事業への支援協力(木材利用の先端技術研究への取り組み)
- ・木の学校事業の実施(広く一般市民が木に触れ、木に親しむ)
- ・秋田杉 販路拡大システム確立事業への取り組み(企業連携による大口需要等への対応)

Q 2市町が合併したが、効果が見えない。市長はどう考えているか。

A 最も大きな効果は、財政面。合併により、国交付金等が割増しで交付される。合併なければ両市町とも厳しい運営を余儀なくされていた。事業面では、現在2小学校建設中だが、合併しなければ計画のみで実現しなかったかもしれない。二ツ井地区水道事業も合併したからこそ可能だった。